

## 大切なパパへ

松田<sup>まつだ</sup> わこ

三年ぐらい前、友達が急に英語や算数の塾へ行き出して、私も行った方がいいのかなあと考えた時があつた。私は家で、パパに「私も塾へ行きたいんだけど」と言ってみた。パパは「そっか。じゃあ、パパとママで今夜相談しておくよ」と笑つた。次の朝、「いただきます」をしたすぐ後に、パパが「わこちゃん、今日から塾だよ。八時ごろに来てね」と不思議なことを言い出した。「八時にどこへ行くの？何ていう塾？」私は同時に二つの質問をした。パパは「八時に、ここ。塾の名前はそうだなあ、『パパ塾』だよ」とニコリした。

ドキドキしているうちに、その日の夜が来た。パパは七時半ごろ会社から帰つて来て、急いで夕ご飯を食べた。そして、約束の八時ちょうどに私の正面に座つたパパは、「わこちゃん、『パパ塾』へようこそ。今日からよろしくね」と言った。私とパパは、塾の時間を九時までと決め、さっそく算数の勉強を始めた。わからない問題があると、パパは少し前に戻つたところから教えてくれた。パパの説明はわかりやすく、私はうれしくなった。本当の塾へ行ったこととはないけれど、何となくこの塾がとてもステキに思えた。そして、苦手な算数なのに、やる

気がわいた。

私のパパは会社員なので、仕事で帰りが遅くなる日や、出張で何泊も帰って来ない日もある。だから、友達のように「火曜と金曜は塾の日」というふうにはいかない。そのかわり、急に「今日は塾に行ってもいい？」と頼んでも、「いいよ。がんばってなるべく早く帰ってくるよ」とパパは言ってくれる。パパはたまに眠そうで、私は、仕事で疲れているのに悪いなあと思う。だから、パパがウトウトしている時は、そっとしておくことにしている。

私は『パパ塾』で、パパに算数の他にもいろいろなることを教えてもらっている。少し前に、私は仲良しの友だちを怒らせてしまつて、とても悲しい気持ちになっていた。パパは、「ごめんなさい」をきちんと伝えられる方法を一緒に考えてくれた。緊張した時、楽しい気持ちになれるおまじないも教えてくれた。そして、誕生日が近いママに喜んでもらうため、今、私はパパに手品を習っている。パパは、手品の名人で、シルクハットからヒヨコを何羽も出すことができるのだ。パパの塾へ通い算数や手品を習っているので、ママは「今日も塾なの？算数が好きになったみたいね」とごきげんだ。もちろん、ママは私が手品を習っていることなんて知らない。パパは、大好きなママにも、このことを絶対に話すはずがない。パパはひみつを必ず守る人だから。大切なパパ、いつもありがとう。